

新型コロナウイルス感染症流行期における耳鼻咽喉科手術への対応ガイド公開に 当たって

(2020年4月3日版)

一般社団法人 日本耳鼻咽喉科学会

新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)感染症(COVID-19)が拡大している。SARS-CoV-2は主として飛沫・接触によって伝播し、鼻腔・咽頭(上気道)は感染者の体内でウイルス量が多い部位で最も危険な感染源である。有効な抗ウイルス薬がなく、医療資源の供給が不安定な現状では医療行為で感染しない、感染させないことが最優先される。耳鼻咽喉科手術は、上気道を術野とすることから、エアロゾル発生手技による感染や、飛沫・接触感染を惹起しやすく、最も感染リスクの高い診療行為である。事実、諸外国からは耳鼻咽喉科手術による感染が複数報告されている。この状況を鑑み、日本耳鼻咽喉科学会では、手術に関わる耳鼻咽喉科医及びすべての医療スタッフを感染から守り、ひいては院内感染を防止するために、現時点で推奨されるCOVID-19流行期における耳鼻咽喉科手術診療への対応ガイドを作成した。状況は刻々と変化しており、各地域の流行状況に応じた適切な対応が望まれることから、本ガイドは適宜アップデートする予定であり、ご確認いただきたい。

なお、本稿はエビデンスに基づいた治療ガイドラインではない。

※本ガイドは日本耳鼻咽喉科学会が推奨するものがあるが、各施設での対応を制限するものではない。各施設においては、内外の医療資源の供給に応じ、関係部署と協議の上、適切な診療を行うこと。

以下に、手術時に必要な个人防护具、術前シミュレーションについて記載する。各対応ガイドと重複する内容も多いが、新型コロナウイルス感染症の流行期における耳鼻咽喉科手術においては、感染拡大阻止のために遵守すべき点であり再掲する。

I. 个人防护具(Personal Protective Equipment: PPE)について

- 本ガイドにおける標準 PPE と full-PPE の定義
 - 標準 PPE: サージカルマスク、アイシールド、手術ガウン・手術用帽子、手袋による通常手術同様の防護。
 - full-PPE: 鼻腔・口腔保護としての FFP2(N95)マスクあるいは電動ファン付呼吸用保護具(Powered Air-Purifying Respirator: PAPR)、眼球保護としてのフェースシールド±ゴーグル、身体の保護としての不浸透性長袖ガウンと、皮膚の露出の少ない手術用帽子を装着(full-PPE)して臨む。
N95 マスク使用の際にはユーザーシールチェックを行う。
ゴーグルの使用に際してはあらかじめ曇り止めを使用するとよい。

- PPE の着脱について

PPE の脱衣時は、医療者自身あるいは周囲のスタッフへ汚染物を曝露するリスクが高い。あらかじめ PPE の着脱訓練を施行し、適切な着脱方法を習得する。

標準的な PPE 着脱方法については以下のサイト(一般社団法人職業感染制御研究会 HP より引用: <https://www.safety.jrigoicp.org/ppe-3-usage-putonoff.html>)で詳しく紹介されており、参照のこと。

- サージカルマスク:
<https://www.safety.jrigoicp.org/ppe-3-usage-surgicalmask.html>
- N95 マスク: <https://www.safety.jrigoicp.org/ppe-3-usage-n95mask.html>
- ゴーグル・フェイスシールド:
<https://www.safety.jrigoicp.org/ppe-3-usage-goggles.html>
- ガウン・エプロン: <https://www.safety.jrigoicp.org/ppe-3-usage-gown.html>
- 手袋: <https://www.safety.jrigoicp.org/ppe-3-usage-glove.html>
- 電動ファン付呼吸用保護具(PAPR):
<https://www.safety.jrigoicp.org/ppe-3-usage-papr.html>

II. 術前シミュレーション

COVID-19 患者や感染疑い・不明の患者が手術の適応と判断された場合、手術担当医、麻酔担当医、手術室ならびに病棟など関連部署の看護師、感染対策チーム(ICT)などと連携し、術前の綿密なシミュレーションを行う(表)。

・full-PPE の準備
・PPE 着脱手順、着脱場所、設定の確認
・患者動線と医師・看護師の動線確認
・エアロゾルの発生や ME 機器の汚染のリスクに応じた手術器械の準備
・患者の移送方法
・麻酔方法
・術後の片付け